

## 一般社団法人日本音響家協会 第18回定例社員総会議事録（Web会議）

- 1, 開催日時：2021年6月7日（火）10時30分～11時10分
- 2, 開催場所：東京都府中市住吉町2-18-1-412 協会事務局
- 3, 正会員総数：372名（総会成立定足数187名）
- 4, 出席者数：210名（委任状による議決権行使者 200名を含む）
- 5, 議長名：八板富榮

### 6, 議事概要

正会員の過半数の出席があり第18回定時社員総会が成立したので、定款第20条に基づき八板富榮会長が議長となり、以下の審議を開始した。

### 7, 審議事項

#### 第1号議案 2020年度事業報告の件

議長は、別紙1の2020年度事業の内容を説明し、質疑応答を行った。

#### 第2号議案 2020年度会計報告の件、並びに監査報告

糸日谷智孝会計執行理事は、別紙3の2020年度の会計報告を行い、続けて鷹栖了監事が2020年度の事業と会計について監査した結果を報告し、議長が第1議案と第2議案について賛否を諮ったところ、全会一致をもって原案どおり承認可決した。

#### 第3号議案 2021年度事業計画案の件

議長は、別紙2の2021年度事業計画について提案し、質疑応答を行った。

#### 第4号議案 2021年度予算案の件

糸日谷智孝会計執行理事は、別紙4の2021年度予算案について説明をし、質疑応答の後、議長は第3号議案と第4号議案の賛否を諮ったところ、全会一致をもって原案どおり承認可決した。

本日のWeb会議システムを用いた社員総会は終始異状なく議題の審議を終了した。以上をもって議案の全部を終了したので、議長は11時10分閉会を宣した。

上記の決議を明確にするため、本議事録を作成し出席した理事および監事が、これに記名押印する。

2021年6月7日

一般社団法人日本音響家協会

理事 八板 富榮 印

理事 糸日谷 智孝 印

理事 高崎 利成 印

理事 坪 田 栄 蔵 印

理事 深 尾 康 史 印

理事 山 本 広 志 印

監事 鷹 栖 了 印

## 別紙 1 第 1 号議案

### 2020 年度事業報告（敬称略）

2020 年 8 月 4 日 [オンライン] セミナー「初歩のネット配信」を実施。講師は溝口修一、中部支部と合同会社エーアイプロの協力。

2020 年 9 月 23 日 [オンライン] セミナー「音楽著作権の現在」を実施。講師は作編曲演奏家・外山和彦、協会会長・八板賢二郎。司会を坪田栄蔵理事が担当。合同会社エーアイプロ、株式会社エヌ エス イーが技術協力。

2020 年 10 月 20 日 [オンライン] 文化庁助成・文化芸術活動継続支援事業、音響家技能認定講座・サウンドシステムチューナーコースを実施。講師は井戸覚道、奥山竜太。ネット配信技術は平井秀昌が担当。合同会社エーアイプロダクションと株式会社エヌエスイーが協力。

2020 年 11 月 26 日 [オンライン] 東日本支部はセミナー「Dante Network」を開催。株式会社ヤマハミュージックジャパンと Audinate 社の協力。

2020 年 12 月 11 日 [オンライン] 東日本支部はセミナー「新時代の事業の作り方」を開催。講師は古屋博敏。A&M グループ株式会社の協力。

2021 年 1 月 26 ～27 日 [オンライン] 文化庁助成・文化芸術活動継続支援事業、音響家技能認定講座・ベーシックコースを実施。講師は糸日谷智孝、井戸覚道、奥山竜太、平井秀昌、高崎利成。ネット配信技術は平井秀昌、高崎利成が担当。株式会社エヌエスイーの協力。

2021 年 1 月 27 日 [オンライン] 北陸支部はセミナー「戦後の劇場運営と北陸支部発足の足跡」を開催。講師は本 輝夫、MC は山本広志。LFJ 株式会社の協力。

2021年2月2日 [ドテスト] 東日本支部はYouTube公開のための映像収録「音響電源の 200V 化について」を実施。

2021 年 2 月 12 日 [オンライン] 中部支部は名古屋市芸術創造センターと共同で Web ワークショップ「劇場・音楽堂等からの Web 配信の基礎知識を学ぶ」を開催。講師は占部吉直（株式会社光響社）。

2021年2月24日 [幕張メッセ] リード エグジビション ジャパン株式会社主催のライブ・エンターテインメント EXPO 技術セミナーを共催。講師は、アートを支える音のサイエンス（初級）を奥山竜太（office R 代表、日本音響家協会理事）、コロナ禍後の音楽産業における強い収益の仕組みを考える（上級）を古屋 博敏（A&M グループ株式会社 CEO 日本音響家協会事業委員）、ネット配信入門（中級）を溝口 修一（合同会社エーアイプロ代表、日本音響家協会事業委員）。サポートスタッフは深尾康史、高崎利成が担当。

2021年2月26日 [兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール] 音響家技能認定講座・ビギナーズコース実施。兵庫県立芸術文化センターの共催、全国公立文化施設協会近畿支部の協力、一般社団法人日本音響家協会西日本支部の主管。

2021年3月5日 [オンライン] 北海道支部が情報交換会を開催。

2021年3月16日 [オンライン] 西日本支部が「小野隆浩さん令和2年度文化庁長官表彰記念講演」を開催。

---

## 別紙2 第3号議案

### 2021年度事業計画

- 1、音響家技能認定講座
  - オンラインによるベーシックコース
  - オンラインによるサウンドシステムチューナー 1級試験
  - 対面によるビギナーズコース兵庫
- 2、配信業務の実際
- 3、マイキングの実際
- 4、その他、適宜にオンラインセミナーを企画・実施

## 損 益 計 算 書

自 2020年 4月 1日  
至 2021年 3月31日

(単位：円)

## 《経常損益の部》

## 〔営業損益の部〕

## 【収入】

正会員年会費	2,106,660
準会員年会費	110,000
入会金	45,000
雑誌広告収入	1,517,450
事業委員会収入	865,500
印税収入	114,892
セミナー等収入	143,000

収入計

4,902,502

## 【売上原価】

期首商品・製品棚卸高	0
当期商品仕入高	0
合計	0
期末商品・製品棚卸高	0

売上原価計

0

売上総利益

4,902,502

## 【事業経費】

事業経費計	6,542,629
-------	-----------

事業剰余金

△1,640,127

## 〔事業外損益の部〕

## 【事業外収益】

受取利息	85
雑収入	1,018,208
事業外収益計	1,018,293

## 【事業外費用】

事業外費用計	0
--------	---

経営剰余金

△621,834

## 《特別損益の部》

## 【特別利益】

特別利益計	0
-------	---

## 【特別損失】

特別損失計	0
-------	---

税引前当期剰余金

△621,834

法人税、住民税及び事業税

70,000

当期剰余金

△691,834

前期繰越剰余金

6,240,131

当期末処分剰余金

5,548,297

## 別紙3その2 第2号議案

### 販売費及び一般管理費内訳書

(単位：円)

雑誌出版費	1,597,750
事業委員会事業費	177,787
講演料・謝金	880,546
通信発送費	532,179
旅費交通費	306,068
広告宣伝費	50,000
接待交際費	18,210
会議費	1,044,369
事務用消耗品費	177,932
備品消耗品費	590,687
新聞図書費	8,096
租税公課	110,863
諸会費	20,000
支払手数料	79,651
減価償却費	291,746
商標権減価償却	11,940
雑費	644,805
事業経費計	<u>6,542,629</u>

### 貸借対照表

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
(現金・預金)		未払金	162,108
現金	15,000	前受会費	10,000
普通預金	5,647,602	預り金	58,509
定期積金	4,100,000	未払法人税等	60,000
現金・預金計	9,762,602	流動負債計	290,617
(売上債権)		負債の部合計	290,617
未収入金	5,422	<b>資 本 の 部</b>	
未収還付法人税	118,500	<b>【基金】</b>	
売上債権計	123,922	基金	3,000,000
(その他流動資産)		基金計	3,000,000
前払費用	17,564	<b>【剰余金】</b>	
その他流動資産計	17,564	損失てん補準備金	1,100,000
流動資産合計	9,904,088	当期末処分剰余金	5,548,297
<b>【固定資産】</b>		(うち当期剰余金)	△691,834
(有形固定資産)		剰余金計	6,648,297
工具器具備品	1	資本の部合計	9,648,297
有形固定資産計	1		
(無形固定資産)			
商標権	34,825		
無形固定資産計	34,825		
固定資産合計	34,826		
資産の部合計	9,938,914	負債・資本の部合計	9,938,914

## 別紙4 第4号議案

### 2021年度予算

#### 収入

内訳	2021年度予算 A	2020年度決算 B	増減額 A-B	備考
正会員年会費	1,700,000	2,106,660	-406,660	2021年度 会費免除制度
準会員年会費	200,000	110,000	90,000	2021年度 会費免除制度
入会金	60,000	45,000	15,000	
雑誌広告収入	1,250,000	1,517,450	-267,450	2021年度 広告費割引制度
事業委員会収入	1,600,000	865,000	735,000	
印税収入	800,000	114,892	685,108	
セミナー等収入	900,000	143,000	757,000	
雑収入	250,000	1,018,293	-768,293	2020年度 文化庁補助金
小計	6,760,000	5,920,295	839,705	
繰越	5,000,000	5,548,297	-548,297	
計	11,760,000	11,468,592	291,408	

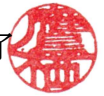
#### 支出

内訳	2021年度予算 A	2020年度決算 B	増減額 A-B	備考
雑誌出版費	1,400,000	1,597,750	-197,750	19年春号は20年度に計上
事業委員会費	500,000	177,787	322,213	
講演料・謝金	1,000,000	880,546	119,454	
通信運搬費	700,000	532,179	167,821	
旅費交通費	1,700,000	306,068	1,393,932	
広告宣伝費	250,000	50,000	200,000	
接待交際費	70,000	18,210	51,790	
会議費	1,700,000	1,044,369	655,631	
事務消耗品費	200,000	177,932	22,068	
備品消耗品費	400,000	590,687	-190,687	
新聞図書費	5,000	8,096	-3,096	
租税公課	100,000	110,863	-10,863	
法人税等	300,000	70,000	230,000	2020は赤字決算
諸会費	50,000	20,000	30,000	
支払手数料	150,000	79,651	70,349	
減価償却費	10,000	291,746	-281,746	2020年度パソコン即時償却
商標権償却	20,000	11,940	8,060	
雑費	100,000	644,805	-544,805	
小計	8,655,000	6,612,629	2,042,371	
予備費	3,105,000	4,855,963	-1,750,963	
計	11,760,000	11,468,592	291,408	

2021年5月19日

一般社団法人 日本音響家協会  
会長 八板 賢二郎 様

監事 鷹栖 了



## 2020年度 監査報告

### 監査報告

定款施行細則第15条の規定により、2020年度の事業報告書および決算報告書等について監査しましたので以下のとおり報告します。

#### 1. 監査の手法

総会議事録、理事会議事録および各支部の運営委員会ならびに各事業計画書および事業報告書、機関誌 SoundA&T、更に協会主催のオンラインセミナー閲覧等により監査しました。

#### 2. 業務監査

##### (1) 事業

2020年度当初に新型コロナウイルス対策による緊急事態が宣言され、イベントの中止が求められ、更に企業には出勤者を7割削減しリモートワークを目指すとの考えが表明されました。このため、オンラインによるイベントやリモート会議が数多く見受けられるようになりました。

当協会の事業もオンラインによるセミナー開催に先駆けて「初歩のネット配信」セミナーを実施しました。その後、音響家技能認定講座や各支部のセミナーもオンラインにより実施されました。

セミナー数は例年に比べて少ないようですが、コロナ過に即した内容のセミナー等を各支部でオンラインにて実施しています。このように支部でもオンラインによるセミナーが行われたことで、他支部の会員も受講する機会が増えました。また、当日都合がつかなくても後日「YouTubeチャンネル」による配信を視聴することができるようになりました。

このようにオンラインセミナーが実施されていくことにより、会員は多くのセミナーを受講することが出来るようになります。コロナ過が終息してもオンラインを併用したセミナーを行っていくことが望まれると考えます。

セミナーの開催は、当分の間、3密(密閉、密集、密接)の防止対策等の感染拡大リスクへの対応が求められますので、これらに充分配慮して実施されることを望みます。

各事業とも事業計画書および事業報告書は提出され、適正に事業が実施されていました。



## (2) 会議の運営

理事会および多くの運営委員会は、Web会議で行われました。各会議とも議事録の報告が適正になされています。

コロナ禍が終息しても会議によっては、Webによる会議を行っていても良いのではと考えます。

## 3. 会計監査

会計報告、会計帳簿、入出金伝票類、預金通帳および現金を監査した結果、収支共に適正に処理されていることを確認しました。

緊急事態宣言等によるイベント中止や入場者数制限や3密回避の要請により、会員の収入減等を救援するため、会費納入免除等を自己申告により認めた「会費納入の特例処置」および機関誌広告費の減額を行った。このことによる、収入減はあったがWeb会議等により経費の節減になり留保金(繰越金)の減少は小差で運用がなされています。

以上